

学 校 だ よ り

10月号



じっくり読み、深く考える秋

校 長 毛利 友紀

風に乗って届く金木犀の香りを感じ、早くも秋の到来を思わせる季候となりました。9月の授業日数は臨時休校や5連休があり18日と少なめでした。また、予定されていた水泳学習が気温や水温の関係で中止となる日もありましたが、保護者ボランティアの皆様のご協力のおかげで、充実した学習を行うことができました。心より感謝申し上げます。連休中の台風は大きな被害がなく安心いたしました。前庭の朝顔やハウセンカの植木鉢を学務員さんが事前に安全な場所へ移動してくださり、今もきれいなお花をつけています。先日1年生が朝顔の種取りをしていました。小さな手のひらに乗せた種を見せ「8個もとれた!」と報告してくれました。その種を見つめ「この種をまいてみたらどうなるかな」とつぶやく子もおり、子どもたちの中に新たな疑問の「タネ」が生まれたことを嬉しく思いました。

保護者の皆様には、参観や面談でのご来校ありがとうございます。面談はあと数日ありますが、お子様の成長を共有できる有意義な時間となりました。夏休みの作品展もご覧いただけたかと思います。日頃の学習や家庭生活、習い事や旅行先での経験などから生まれた興味深い「タネ」がたくさん見られました。じっくりと時間をかけて仕上げられた作品からは、子どもたちの主体性とともにご家族の温かい協力を感じられました。朝会でも子どもたちには夏休みの課題への取組や頑張りに花丸をあげましたが、協力してくださった保護者の皆様にも心より感謝と敬意の念を表したいと思います。

さて、本校では重点目標の一つとして「読書活動の充実」を掲げています。9月は図書ボランティアOB・OGの皆様による宮沢賢治の朗読劇や、図書ボランティアの皆様によるお楽しみ会、「おはなし玉手箱」の皆様による読み聞かせ、担任以外の教員による「ぐるぐる先生」の読み聞かせなどがあり、子どもたちは夢中で物語の世界に引き込まれていました。学校図書館司書さんによると、本校図書館の蔵書は約14,000~15,000冊あり、休み時間には毎日30~40人の児童が訪れ、畳のスペースなどで思い思いに本を楽しんでいるそうです。図書室から離れたA棟の5年生もよく来てくれていることや、6年生が朗読劇の感想やメッセージを書いてくれたことが嬉しいといったこともお話ししていただきました。読み聞かせの機会や図書室は子どもたちの豊かな学びの場となっています。

現代では子どもたちが疑問の「タネ」をもった時、ネット検索を使えば瞬時に膨大な情報へアクセスできます。速度や利便性の面では非常に優れていますが、一方で書籍には高い信頼性や体系的な構成力があります。さらに脳科学の分野では、デジタル画面の刺激に反応する「受動的な集中」に対し、自らの意志でページをめくり文章に向き合う読書は「能動的な集中」を育むとされています。現代では刺激的な動画やゲームに慣れ、「長い文章を読むことが苦手」「一つの活動に集中できない」という子も増えていますが、この「能動的な集中」こそが、思考力や探究心を深く耕す基礎となります。私自身も通勤途中や休日に読書を楽しんでいます。たくさんの言葉に触れて語彙が増える喜びや、物語の登場人物に感情移入することで他者への理解が深まる実感を得ています。時には心をリラックスさせ、時には新しい世界を教える読書は、私にとってもかけがえのない時間です。これからも、子どもたちが日々の生活で見つけた疑問の「タネ」を、読書という探究を通じて自らじっくりと考え、深めていけるよう、引き続き本に親しめる環境づくりを進めてまいります。

10月は前期終業式、後期始業式があります。これまでの成長を振り返り、新たな目標に向かう節目の時期となりました。運動会に向けた取組も始まっています。子どもたちの思いの実現に向けて、全職員でよりいっそう協力し、支援していく所存です。

「あ、そうっか 麻生区長寿日本一」(麻生区役所地域まもり支援センターより)

麻生区では、健康寿命の延伸を目指した取り組みに加え、「心の健康」につながる幸せに着目した取組を進めており、「目標・日々のチャレンジ」を募集しています。大人も子どもも回答できますので、よろしければ右の二次元コードあるいはURLより、ご協力ください。



<https://logoform.jp/form/FUQz/1070222>